

コメント

Hiromi TAGAWA

●株式会社ジェイティーピー
代表取締役社長

東アジアに向けての日本の 観光業界からの復興へのメッセージ

この度は日本国際文化学会の特別シンポジウムに参加させていただきありがとうございます。私からは「東アジアに向けての日本の観光業界からの復興へのメッセージ」としてお話をさせていただきます。

この度の東日本大震災は未曾有の大災害であり、私が携わる観光業界も過去に例を見ないほどの大きな影響を受けています。観光地における直接的な被害のみならず、自粛ムードによる旅行需要の低迷、企業等の国際会議・イベントや旅行の自粛、原発事故による訪日旅行者の渡航控え等の影響により、観光産業全体が厳しい状況におかれています。こうした中、被災地の復旧とともに、官民一体となった業界を挙げての「旅の力」による復興支援も力強く推進され始めています。各国政府において発出されていた渡航自粛・延期要請については4月中下旬には徐々に緩和され、海外からの視察旅行等が再開され始めました。国や観光業界においても、5月にはWTTC世界ツーリズムサミット in ラスベガス、日中韓首脳会談、日中韓観光大臣会合が開催され、世界に対して日本における観光交流の促進についてアピールしてまいりました。

また、震災により落ち込んだ日本人の消費者心理は、日本の長期連休であるゴールデンウィークからは回復の兆しを見せています。4月になり桜の花が咲き、季節が廻るとともに、日本人はこのままではいけないという気持ちを強く持つようになりました。被災者を気遣い、外食もせず、旅行にもいかずひっそりと暮らすことは、むしろ被災地の復興を妨げるということに気が付きました。これからの夏休みに向けて着実に観光需要が回復していくと考えており、JTBでもロングステイ型商品を取り揃えるなど新たな旅の提案に努めています。

このように、一歩ずつ着実な歩みを進めている日本の観光業界ですが、インバウンドについてはまだこれからです。そこで、今回ご出席されている皆様にぜひお願いしたいことがあります。皆様の持つ影響力を発揮していただき、日本の正しい情報を世界中の人たちに伝えていただきたいということです。実際、風評被害により世界中で、「日本全体が危ない状況だ」、といった認識がされています。原発事故により周辺地域では避難地域に指定されていますが、たとえば東京では平常どおりに生活が営まれています。節電は行われていますが、電車も通常通りに運行しています。こうした日本の正しい実態を知っていただき、正しい情報を元に多くの観光客の方々に日本にお越しいただきたいと思っています。

さて、先ほど私から「旅の力」とお話しましたが、皆様は「旅の5つの力」についてご存知でしょうか。「旅の力」とは、「文化の力」、「経済の力」、「健康の力」、「教育の力」、「交流の力」、と5つの力のことを言います。特に「文化の力」、「交流の力」を活かすことで、今回のテーマである東アジア共同体における文化の相互交流を促すことができるのではないかと考えています。

まず、「文化の力」ですが、「多様な国や地域の歴史、自然、伝統、芸能、景観、生活の発掘・育成・保存振興に寄与する」という考え方です。一昔前には、観光といえば画一的な団体旅行が主流だった時代が日本にもありました。しかし、日本人のライフスタイルも変わり、十人十色というよりも、一人十色といった多種多様な価値観をそれぞれが持つようになってきました。そのため、最近では日本全国の豊富な自然資源、生活に根ざした文化、歴史など各地域の独自の宝を楽しむ旅、つまり地域の文化に触れ合う旅を楽しみたいというニーズが増えています。「非日常」の体験よりも「異日常」の体験が求められているのです。そして、こうした傾向は今後さらに強まっていくでしょう。また、日本に来訪される中国人観光客の方々の目的も、初回はショッピングですが、2回目以降はその国の自然や歴史に触れる旅をしたいというニーズが高まっています。アジア諸国においても、今後は旅が成熟化し、旅人も成長していきます。旅人の求めるものもどんどん進化していきます。日本においては、アジアの国々の皆様の手本となるような、地域文化を生かした観光まちづくりを進めてまいりたいと考えています。

次に、「交流の力」ですが、「国際間、地域間における相互理解、友好促進を通じ、安全で平和な社会の実現に貢献する」という考え方です。国際間、地域間における相互理解を深めるためには、旅の力が間違いなく大きな力を発揮するといえましょう。そのために必要なことは、それぞれ互いの国、地域の文化を大切にすることです。まずは自分の地域のことを知る。過去から伝わる生活文化、歴史を知る。その上で相手と会話することによって、互いをリスペクトし合い、相互理解が深まるのです。

以上のように「旅の力」を活用することにより、文化の相互理解が深まった結果、市民レベルにおいての東アジア共同体の形成が可能になるのではないかと考えています。そして、こうした交流を促進するには、それぞれの地域の生活文化を大切に磨き上げる必要があります。さらにはしっかりと発信することです。こうした活動が東アジアの様々な地域に魅力的な交流の場を生み出し、東アジア全体での「交流文化圏」を形成するのだと思います。

最後に、今回の東日本大震災の復興に向けては、息の長い継続的な取り組みが必要です。私達JTBでは東北地域の復興をお手伝いするとともに、お客様に訪れていただく魅力的な地域づくりを今後地球規模でお手伝いしてまいりたいと考えています。日本の各地域と東アジアとの架け橋となり、東アジアの「交流文化圏」の創造に貢献したいと考えています。

ご清聴ありがとうございました。